

河川事業の再評価概要書

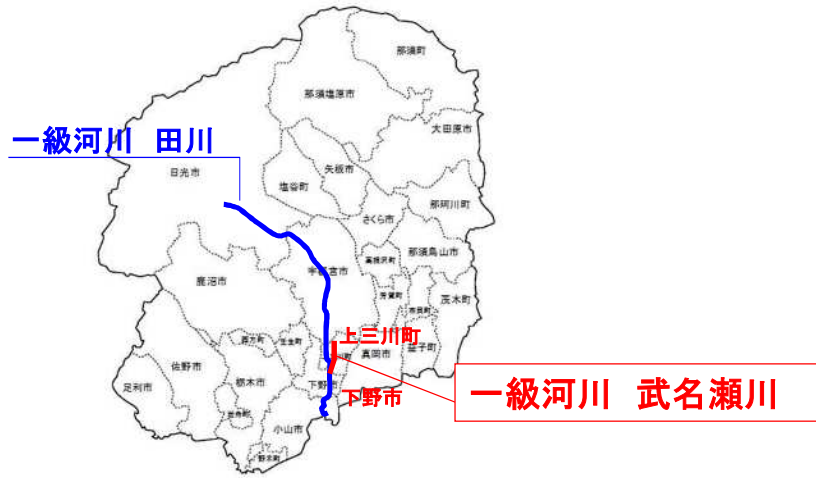
() は、前回再評価時

河川事業の再評価概要書		番号			
		事業主体	栃木県		
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課	
路線・河川名	一級河川 武名瀬川		事業箇所名	下野市、上三川町	
事業区間	下野市谷地賀地先～ 上三川町上蒲生地先		事業延長	6,500m	
平成9年度事業採択			平成9年度用地着手	平成11年度工事着手	
事業期間	H9 ～ R8		事業進捗状況	基準年次：【令和3年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[15.7(14.0)億円] 70.0(61.3)億円			[うち用地補償費] 既投資事業費	[8.6億円] 41.0億円
事業概要					
<p>武名瀬川は、宇都宮市下栗町地先に源を発し、宇都宮市南部の農地を流下し、上三川町を経て、下野市で田川に合流する一級河川である。</p> <p>計画区間は、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や農地に浸水被害が生じている。</p> <p>そこで、河川断面を拡大することにより、治水安全度の向上を図る。</p>					
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変化 等					
特になし					
事業の投資効果					
1 費用対効果分析結果					
			【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
1) 事業全体	B/C=10.2		1,025.4 億円	100.1 億円	[L=6,500m 区間]
2) 残事業	B/C=15.9		329.5 億円	20.7 億円	[L=2,300m 区間]
2 事業の整備効果等					
整備により、河川の流下能力が約 2.5 倍となり、治水安全度の向上が図られる。					
事業の進捗状況等					
1 事業の進捗状況					
事業延長 6,500m のうち、下流端から野田橋直下地点までの約 4,200m の整備が完了している。					
2 今後の事業進捗の見込み					
用地取得及び工事を推進し、令和 8 年度を目標に全区間で事業の完了を図る。					
3 事業費の変更理由					
平成 27 年 9 月関東・東北豪雨により、事業区間の土羽護岸が被災したことから、市街地に近接する区間について、護岸をより堅固な構造に見直しを図った。また、労務資材単価の上昇及び消費税増税など事業費精査により全体事業費が増額となった。					
コスト縮減等					
1 コスト縮減方策					
工事の際に発生する残土については、工事間流用により、工事費の縮減を図っている。					
2 代替案立案等の可能性					
代替案として、事業区間の上流端付近に遊水地を整備することが考えられるが、追加で用地取得が必要となり、工事に要するコスト等を考慮した場合、有利となる本計画が最適である。					
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。			

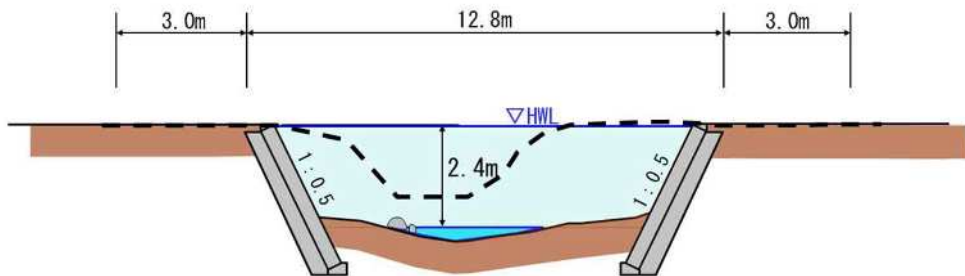
安全な川づくり事業

一級河川 武名瀬川 事業箇所(位置図、概要図)

位置図

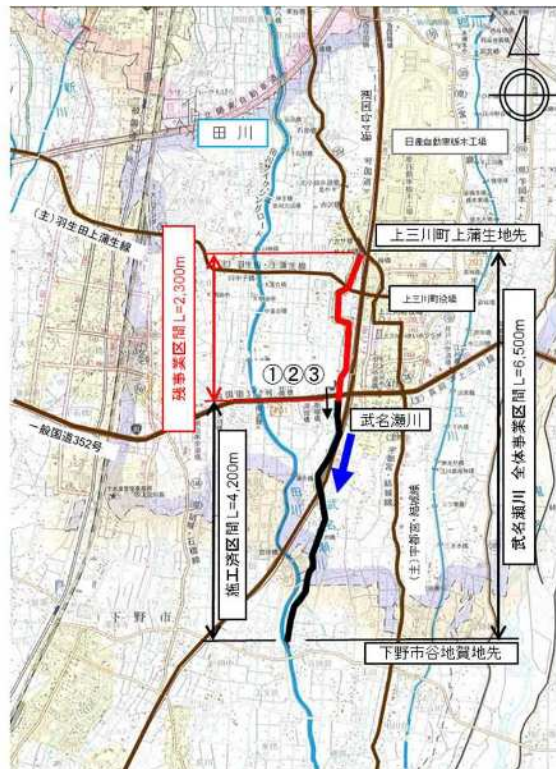


標準断面図



計画流量	50m ³ /s
現況流下能力	概ね20m ³ /s

概要図



①出水状況
野田橋下流



②整備前
野田橋下流



③整備後
野田橋下流

